

3-9 大学情報化職員基礎講習会

本講習会は、職員による教育支援、人材育成支援の積極化を図るため、大学が抱える教育問題、人材育成の現状について共通理解を深め、問題解決のための取り組みについて業務の在り方を見直す中でIT活用による新しい支援の可能性と課題を確認し、コーディネート、マネジメント、コミュニケーション、情報倫理力に必要な基礎知識を習得することを目的としている。講習会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置して、対応した。以下に活動を報告する。

（1）開催要項の決定と実施準備

昨年度と同様、講習会の趣旨を理解する全体会、教育改革に必要な基本的な知識を学ぶ講義、講義を参考に人材育成支援、教育・学習支援の在り方、実現のための課題、IT活用による問題解決を考えるグループ討議の三つの柱でプログラムを企画することとした。

全体会では、山田委員長より大学職員としての職務への取り組み方や理想的な教職連携のあり方について説明を行うとともに、講習会の趣旨説明を行い、次いで、井端事務局長よりファカルティディベロップメントに求められる大学の課題やIT活用の実情について紹介することとした。講義では、職員の役割を共通理解した上で、ITを活用した支援や基盤整備等を取り上げることとし、具体的な事例を取り入れて教育再構築に向けた職員の在り方を強調した。グループ討議では、拡散しがちな議論を最終的に収束できるよう、グループごとに討議の成果発表を課すこととした。なお、本年度開催要項の配布に先立ち、講習会のメリットを案内するため、参加者の声を取りまとめた連絡担当者宛に配布した。

平成19年度大学情報化職員基礎講習会開催要項

1. 開催趣旨

人材育成を最大の使命とする大学教育について、社会から質の保証が問われている。それに応えるためには、教育改善に向けて理事会、教員組織、職員組織が一体となって取り組むことが要請される。このような中で職員の役割は、教育改革を効果的に進めるためのコーディネート、マネジメントを通して教育支援、人材育成支援を実現することにある。そこで、本講習会では、講義およびディスカッションを通じて、大学職員に求められる役割や責任を

理解するとともに、魅力ある大学づくりのために各参加の意識改革を促すこととする。

2. 講習の進め方

大学が抱える様々な課題について、研修運営委員会が選出したそれぞれの分野で経験豊富な私立大学職員(管理職相当)が、テーマごとに講義を行います。研修後半にはグループディスカッションの時間を設け、講義の内容と自己の業務を関連付けて考えることにより、本講習会の趣旨をより明確に理解していただくことにしております。また、講習の理解促進を図るため、講演、事例紹介、用語解説、私情協の活動紹介などを随所に盛り込む予定。

※ 本講習会は、単なる情報リテラシーの習得、IT 活用による業務の効率化、事務システムの構築、運用のノウハウの習得を目指すものではありません。またPC 等による実習は行いません。

3. 受講対象者

加盟大学・短期大学の職員で、情報技術を活用した業務の情報化と教育支援に関する基礎知識の修得を希望する方。

4. 日時：平成19年7月4日(水)～6日(金)

5. 会場：浜名湖ロイヤルホテル

6. 募集定員：250人

7. 講義概要

講義(1)「期待される職員像 ～教育の支援者としての働き～」

講師：杉町 宏氏(立命館大学情報理工学部事務室事務長)

本講義では、大学の教育活動を支援する立場から、大学が抱える教育問題、人材育成の現状について共通認識を持つとともに、それらの課題解決に向けて職員に求められる基本的な能力・姿勢について解説する。とりわけ基本的な能力の一つとして、教員との協働化、経営管理組織への提案、職員組織間での調整・マネジメントを取り上げる。

(キーワード)

- * 大学を取り巻く情勢と社会が求める人材育成
- * 大学の社会的責任
- * 教育改革の必要性
- * 教職協働のあり方
- * 求められる資質・職員像とスタッフディベロップメント

講義(2)「大学運営と情報化戦略」

講師：梶田晶子氏(東海大学総合情報センター情報システム開発課課長)

大学運営の活性化のために、IT を活用した新たな環境づくりが求められている。情報の共有は単に業務の効率化や学生・教職員一人ひとりへの支援

やサービスに留まらず、経営戦略や組織改革といった大学の意思決定にまで活用されつつある。本講義では、大学改革を進めるための基盤としての情報戦略について解説を行う。

(キーワード)

- * 情報基盤と環境の整備
- * 大学運営にかかわる情報利用

講義(3)「情報技術の活用による教育支援・人材育成支援」

講師： 斉藤 和郎氏(札幌学院大学情報処理課長)

事例紹介： 斎藤真左樹氏(日本福祉大学教育開発担当部長)

事例紹介： 高橋 公生氏(名古屋学院大学学術情報センター課長)

本講義では、教育改善を実現するための有効な手段として、情報技術の活用を取り上げる。多様な学力・モチベーション・価値観を持つ学生を、大学が質保証して社会に送り出すには、従来の授業形態や学生指導の方法では限界がある。教員に対する教育支援や学生の学習指導の支援、キャリアアップ支援について、実際の大学で行われている先進的な取り組みを紹介するとともに今後の課題や対策を考えていく。

(キーワード)

- * ITを活用した教育支援
- * 学習支援環境、学生指導のツールとしてのIT
- * FD支援、教育支援組織のあり方
- * 大学事例紹介(キャリア形成支援、学生ポータル、FD支援)

講義(4)「情報技術導入による大学の新たな可能性」

講師： 山崎 達朗氏(芝浦工業大学学術情報センター事務部長)

本講義では、情報技術による教育・学習支援の事例や学生サービスの最新動向について事例をもとに紹介し、可能性と限界を見極めるとともに、教育・学生情報の漏洩対策等、情報のセキュリティについても解説する。また、大学職員として最低限身につけるべき情報技術力(ITスキル)の基礎を紹介する。

(キーワード)

- * 技術導入に伴う心構え
- * 職員に求められるITスキル
- * e-ラーニング
- * 情報セキュリティ

(2) 開催結果と次年度の計画

参加大学は105大学、3短期大学から194名であった。開催結果の詳細は、資料編【資料15】を参照されたい。

参加者は、昨年度に比べて約50名程減少した。過去の参加状況と比べ、1大学当たりの参加者が大きく減少しており、大学の採用計画等の事情、研修会に対する特色の希薄化も考えられることから、次年度の企画について次のような検討を行った。

本研修会のメインテーマである大学職員の意識改革については、相当浸透してきていることから、職員の役割・使命のセッションを省き、人材育成支援、教育・学習支援を実現するためのITの活用、情報基盤環境の整備等を中心にプログラムを計画することを考えている。そのために、研修で得られる能力の明示、参加者自身が自己評価できる点検シートの作成など開催要項を工夫・見直しすることにした。なお、事業組織の見直しとして、研修会と基礎講習会の統合を図り、プログラムの特色発揮に努めることにした。

